

<共通論題>

仮想通貨の経済学的意味と今後の課題

東京大学 柳川範之

<報告要旨>

ビットコインに代表される仮想通貨が、実際に価値をもち流通している現状は、貨幣の意義を経済学的に考えるうえでも重要である。そこで、この報告においては、まず仮想通貨を通常の経済理論及び貨幣論の中に位置づけるとともに、仮想通貨が、通常の貨幣とは異なる特徴をどのように有しているのか、そして技術の進展がどのような影響を与えたのかを簡単に紹介する。

そのうえで、現状の仮想通貨が、通貨としてはどのような点で課題を抱えているのか、そしてそれは今後どのように進展していく可能性があるのかを検討する。また、マクロ経済理論や金融論に沿って考えた場合、仮想通貨がどのように経済に影響を与える可能性があるのか、また経済実態の変化によって、仮想通貨の存在可能性が変化しうるのか等について議論する。

また、ICO と呼ばれる、新しい仮想通貨発行による資金調達方法も生じてきている。これについては、ほとんど詐欺に近いという主張もある反面、ブロックチェーン技術を実用化するうえでは重要だという主張もある。そこで、ICO が経済に与える影響とブロックチェーン技術と ICO の関係および ICO 関連のベンチャービジネスの可能性についても議論する。

最後に、ICO も含めて今後の仮想通貨関連取引において、どのような規制を考える必要があるのかを、特にどのような視点から規制を考えるかによって規制のもつ意味が大きく変わってくる点に焦点をあてて検討する。